

田崎草雲 たさきくさうん 畫家、歌人。文化十一年十月十五日江戸生れ、明治二十一年九月一日歿（八五—九六）。講芸、初の明義、宇草雲、幼石瑞白、通稱資助、頼助、恆太郎。號二百翁、後樂十、木石居、梅溪、梅溪散人、田崎紫山子、畫鬼道人、白石子、白石山房主人、祝田農大、草雲仙人、草雲田崎藤原朝臣明義、草雲老人、蓮台寺大和尚、蓮花山人、足利浪人、鐵面生、開山老和尚等。初の金井為洲に學び、長じて脱藩轉々、川崎梅翁、春木南溟に師事すると、また渡邊崋山に私淑しその畫法を學ぶ。嘉永六年藩士戸田家御用繪師となり、更に大和繪を研究して山水畫の志あり。暮末國事公奔走も、維新後畫事に専念。明治十二年。パリ萬國博覽會の出品、名譽賞牌。十五年第一回内國繪畫共進會銀印受賞等。帝室技藝員。門下小室翠雲等。

著書『白石山房遺草』（佐佐木信綱校、明治四十二年十一月草雲先生追善刊行）、『白石山房遺範』（日本南畫院編、昭和五年十一月一日京都・芸艸堂出版部）等。須永弘著『草雲田崎先生傳』（昭和十四年六月十八日栃木・足利草雲會）、大島萬世著『勤王 畫聖田崎草雲』（昭和十九年一月二十日愛讀社）、荒川敏雄著『画聖田崎草雲』（昭和四十七年五月二十日ヤポロソ社）等がある。

